

国立大学法人高知大学中期目標

平成 22 年 3 月 29 日 文部科学大臣提示
平成 26 年 3 月 25 日 文部科学大臣提示
平成 27 年 3 月 23 日 文部科学大臣提示

国立大学法人高知大学中期目標

(前文) 大学の基本的な目標	1 頁
◆ 中期目標の期間及び教育研究組織	1
1 中期目標の期間	1
2 教育研究組織	1
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	2
1 教育に関する目標	2
(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標	2
(2) 教育の実施体制等に関する目標	2
(3) 学生の支援に関する目標	2
(4) 教育における国際交流に関する目標	2
(5) 高大連携に関する目標	2
2 研究に関する目標	2
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標	2
(2) 研究実施体制等に関する目標	2
3 その他の目標	3
(1) 地域を志向した大学に関する目標	3
(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標	3
(3) 国際化に関する目標	3
(4) 附属病院に関する目標	3
(5) 附属学校に関する目標	4
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標	4
1 組織運営の改善に関する目標	4
2 事務等の効率化・合理化に関する目標	4
III 財務内容の改善に関する目標	4
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標	4
2 経費の抑制に関する目標	4
(1) 人件費の削減に関する目標	4
(2) 人件費以外の経費の削減に関する目標	4
3 資産の運用管理の改善に関する目標	4
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	4
1 評価の充実に関する目標	4
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標	5
V その他業務運営に関する重要目標	5
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	5
2 安全管理に関する目標	5
3 法令遵守に関する目標	5

(前文) 大学の基本的な目標

高知大学は、人と環境が調和のとれた共生関係を保ちながら持続可能な社会の構築を志向する「環境・人類共生」(以下「環・人共生」)の精神に立脚し、地域を基盤とした総合大学として教育研究活動を展開する。教育では、普遍的で幅広い教養を持った専門職業人を養成する。研究では、南国土佐を中心とした東南アジアから日本にかけての黒潮の影響を受ける地域、すなわち黒潮流域圏の特性を活かした多様な学術研究を推進する。もって地域社会の課題解決を図り、その成果を国際社会に発信する。そのため以下の基本目標を掲げる。

1. 教育

高知大学は、幅広い教養と高度で実践的な専門能力を身に付け、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成する。とりわけ、地域が直面する諸課題を自ら探求し、学際的な視点で考えるとともに、「環・人共生」の精神に立ってその解決策を提案できる人材の輩出を今期中期目標期間の重点的教育目標とする。

このために、学士課程教育では人文科学・社会科学・自然科学・生命科学にわたる普遍的で幅広い教養と各分野の専門基礎力及び社会で活躍するために不可欠な人間性・社会性・国際性を涵養する。また、大学院教育においては、自らの専門分野において、国際的に通用する知識・技術・表現力を持った人材を育成する。

2. 研究

高知大学は、高知県を中心とした南四国や近縁の黒潮流域圏の地域特性に根ざした先導的、独創的、国際的な研究を推進し、そこで培われた知見やノウハウや人材を国内外の諸地域にも敷衍させることにより、地域社会、近隣社会と国際社会に貢献する。具体的には、自然及び環境保全と、住民の安全・健康とクオリティ・オブ・ライフ(生活の質)の向上を目指した研究を推進し、人と環境との調和のとれた発展に貢献する。研究のキーワードは、「海」、「環境」、「生命」とする。

研究体制としては、個々人の自由な発想に基づく個人研究をベースとしつつ、1) 研究拠点で行う研究拠点プロジェクト、2) 自然科学系・人文社会科学系・医療学系・総合科学系の各学系が行う学系プロジェクト、3) 海洋コア総合研究センターや総合研究センター等を行う組織的研究において、研究者間交流を活性化して研究水準の高度化を図る。

3. 地域連携・国際化

高知大学が有する人的資源(教職員・学生)、知識、情報、研究成果などの知的資源を駆使することで、高知県を中心とした地域社会への貢献を深化・発展させ、地域に欠くことのできない大学として存立基盤を強化する。

これまでに培ってきた教育研究上の成果をアジア・太平洋地域の諸国、特に、開発途上国へ還元することにより、国際社会への積極的な貢献を図る。また、地域に根ざした特色ある国際交流の推進を通して、高知大学の国際化のみならず、活力ある地域社会の発展にも寄与する。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成22年4月1日から平成28年3月31日まで

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科等及び別表2に記載する共同利用・共同研究拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

(学士課程)

- ①地域社会の諸課題を、幅広い教養と緻密な観察力に基づく学際的な視点で自ら捉える課題探求力、さらには諸課題への対応策と解決策を自ら構築し提案できる能力とともに意欲を持った人材を育成する。
- ②社会の様々な人々と協働して活躍する上で、自文化及び異文化を共に認めることのできる国際性を有し、他人の意見を理解し自らの意見を主張できるコミュニケーション力を有する人材を育成する。
- ③分野横断型で学際的な教育を実施する特別教育プログラム等により、「環・人共生」の精神に立ち持続可能な社会の構築を実現するための方策を提案できる人材を育成する。

(大学院)

- ④全学の研究科を統合し一元化した総合人間自然科学研究科において、教育理念である「文理統合」による領域横断型の教育をさらに発展させ、幅広い分野の知識や技術にも興味・関心を有し、新たな状況や環境に柔軟に対応し、「環・人共生」の精神を持った自己の道を切り拓くことができる人材を育成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- ①各学部等において策定したカリキュラムを効果的に運用するため、教員の職能開発を全学的に推進する。

(3) 学生の支援に関する目標

- ①多様な就学環境にある学生等が、快適で充実したキャンパスライフを送ることができるよう体制を充実し、物心両面において支援する。
- ②キャリア形成支援の体制を強化し、円滑に就職できるよう支援する。

(4) 教育における国際交流に関する目標

- ①日本人学生及び留学生の国際交流を活発に行える教育プログラムを開設し、学生等の国際感覚の育成を推進する。

(5) 高大連携に関する目標

- ①学士課程教育、特に、初年次教育の充実に資する高大接続教育の発展に取り組む。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ①高知大学を代表する研究拠点を複数置き、学際的な組織研究を推進し、独創性の高い国際水準の研究成果を発信する。
- ②高知県を中心とする南四国や近縁の黒潮流域圏が有する様々な地域資源の利活用を図り、地域課題の解決に向け、総合大学の特性を活かした多様な学術研究を学系プロジェクト研究にて遂行する。
- ③地球掘削科学に関する全国共同利用・共同研究拠点として、国際水準の研究を推進し、国内外に向けて高い水準の研究成果を発信する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- ①研究拠点プロジェクト，学系プロジェクト，個人・グループ等が行う研究活動について，資源の戦略的・重点的活用を図るため，評価に基づく運営・支援体制を構築する。
- ②研究拠点プロジェクト，学系プロジェクト，個人・グループ等が行う研究活動の質的向上や社会還元に向けた全学的支援体制を充実するため，センター機能をより一層強化する。
- ③地球掘削科学全国共同利用・共同研究拠点としての活動を推進する。

3 その他の目標

(1) 地域を志向した大学に関する目標

- ①地域社会と連携した「地域の大学」としての取組を進めるとともに，全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。

(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標

- ①自治体との連携における「信頼と絆」を深め，地域再生への関与を強化し，シンクタンク機能を充実させる。
- ②ニーズの高い地域の中核となるべき人材育成を系統的なカリキュラムを設計して実施し，環境人材の育成や地域社会・産業社会の振興を支える指導的な役割を担う人材を輩出し，地域再生に貢献する。
- ③学内外における高知大学への愛校精神を醸成し，地域の大学としての存立基盤を強化する。
- ④他の高等教育機関との機能的連携体制を構築する。特に，四国内の大学との教育・研究連携を強化し，中山間地の医療・環境・食料を総合的に取扱い，成果を国内のみならず，立地環境の類似したアジア地域に積極的に発信する。

(3) 国際化に関する目標

- ①アジア・太平洋地域をはじめとする世界の国々，特に，開発途上国との学術交流を通じて教育研究活動を活性化させ，「知」の国際貢献を図る。
- ②国際化のための環境整備を強化し，世界から優秀な研究者・学生等が結集する大学にする。戦略的・組織的な取組により，高知大学の教育，研究，マネジメントを向上させ国際的通用性を確保する。

(4) 附属病院に関する目標

- ①社会ニーズに呼応した病院機能・運営を強化するとともに，災害医療の充実，がん診療ネットワークの構築と診療体制の充実などを基盤として病院再開発を目指す。
- ②先端医療の確立と研究成果の医療現場へのフィードバックを充実するとともに，パートナーシップに基づく地域医療を実践する。
- ③教育・研修における医学から医療学へのパラダイム変化（医学という研究的価値は，医療現場でのコミュニケーションや手技，成果に反映できてこそという考え方の変化）に対応するため，スキルスラボ（臨床技能を学習する施設）や既設センター機能をより充実する。

(5) 附属学校に関する目標

①附属学校園を地域のモデル校とするために以下の項目を目標に置く。

- 1) 大学・学部と一体となった運営体制の構築
- 2) 地域の教育課題に応えた先導的・実験的な教育研究の実施
- 3) 高知県教育委員会等と連携した研修・学校支援体制の構築

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- ①教育研究組織の見直しを行い、柔軟かつ機動的な組織運営を図る。
- ②学長のリーダーシップにより、重点事業に学内資源を戦略的に配分し、組織をより一層活性化する。
- ③優秀な人材を確保・育成して組織を活性化するために、職場環境及び各種制度を整備・充実する。

2 事務等の効率化・合理化に関する目標

- ①事務職員の能力の開発及び向上を図るとともに、仕事と生活の調和にも配慮し、機能的で機動的な事務組織を編成する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- ①財政基盤の維持・強化を図るため、新たな制度の構築や戦略的な取組により外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加を図る。

2 経費の抑制に関する目標

(1) 人件費の削減に関する目標

- ①「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成 18 年法律第 47 号)に基づき、平成 18 年度以降の 5 年間に於いて国家公務員に準じた人件費削減を行う。さらに、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」(平成 18 年 7 月 7 日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続する。

(2) 人件費以外の経費の削減に関する目標

- ①決算分析を基に全学的な経費節減方策を実施し経費を抑制する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ①大学が保有する人的、物的、知的資産の利用状況を踏まえつつその効率的な管理・運用を行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- ①評価内容及び体制を充実し、PDCA サイクルによる確実な改善を行う。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- ①「高知大学広報基本方針」に則り、教育研究活動や運営状況等を積極的に情報発信する。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ①教育研究活動，キャンパス環境，先端医療の充実を図るために計画的な施設整備を推進するとともに，施設マネジメントにより施設を有効活用する。

2 安全管理に関する目標

- ①学生達に豊かなキャンパスライフを提供する大学，安心して教育研究に専念できる大学，地域住民からも安全な公共的施設とされる大学として，安全管理体制を充実する。
また，大学の危機管理を徹底し，防災対策を講じる。

- ②情報管理の徹底を図るため，情報セキュリティを高める。

3 法令遵守に関する目標

- ①国立大学法人に求められる法令遵守を徹底し，積極的な広報活動など社会への説明責任を果たす。

(別紙)

中 期 目 標

別表 1 (学部, 研究科等)

学 部	人文学部 教育学部 理学部 医学部 農学部 地域協働学部
研 究 科	総合人間自然科学研究科

注) 愛媛大学大学院連合農学研究科の参加校である。

(別紙)

中 期 目 標

別表 2 (共同利用・共同研究拠点)

海洋コア総合研究センター